

～1万年にわたる六ヶ所村の縄文遺跡群～

企画展から、六ヶ所村で発掘された縄文時代の遺跡から読み取れる、当時の様子や縄文人の思いを時代区分ごとに7つのメッセージとして、ご紹介します。
縄文時代晩期からのメッセージ 7 です。

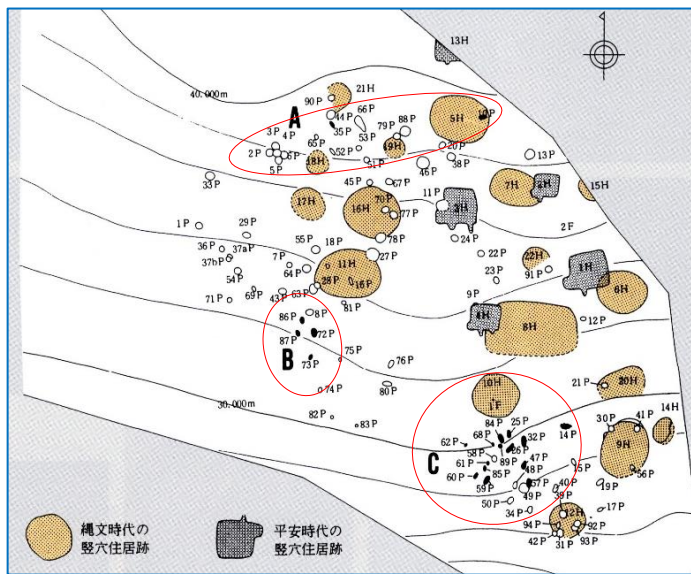
メッセージ 7

共同墓地に葬られた人たち



祈祷師まがりん

共同墓地が3か所、住居域は不明 上尾駁(1)遺跡 C 地区



遺構配置図

縄文時代晩期になると、河川の流域に大集落がみられ、サケやマスが主要な食料となります。多彩な漆製品や土器、遮光器土偶で有名な亀ヶ岡文化が栄えます。集落から離れたところに墓地が造られ、土笛や土面などもみられ、呪術や祭りが行われたと考えられます。

上尾駁(1)遺跡 C 地区は、晩期の大洞 C 1～C 2 式期の土坑墓が 21 基発掘され、そのうち 13 基から多量の玉類 766 点(内ヒスイ製 93 点)、赤漆塗り櫛 2 点、副葬土器等が出土しました。墓から 5～6m 離れたところから「鼻曲がり土面」も発見されています。しかし、居住集落は未発見となっています。

★上尾駁(1)遺跡 C 地区(土坑墓 21 基)

- ・赤色顔料 = 17 基 (81%)
- ・玉類出土の墓数 = 13 基 (62%)
- ・玉類出土数 = 958 個

上記のように、いかにこの遺跡の人たちは、高価な玉類を豊富に持っていたこと、手厚く儀式を行う風習があったことがわかります。



上尾駁(1)遺跡の祭りの儀式の想像図



鼻曲がり土面



首飾り



首飾りをした土偶



遮光器土偶の足



石刀